

「年金業務システム（フェーズ2）の設計・開発に係る管理支援等業務（プロジェクト全体の工程管理支援）一式」調達仕様書（案）に係る意見等に対する回答

令和4年6月
日本年金機構

標記について、意見を募集したところ、以下のようなご意見等をいただきました。お寄せいただいたご意見等とそれに対する回答は次のとおりです。

項番	仕様書の該当箇所		区分	意見等内容	回答
	頁	章番号等			
1	1	1. (1)	質問	この図の読み方として、以下の解釈で相違ないか？ ・契約締結日＝役務開始日の見込み ・1ヶ月の習熟期間（無償）を経て、役務開始日の1ヶ月後を始点に23ヶ月が実支援期間＝支払い対象期間となる見込み	・ご認識のとおり、契約締結日から役務開始日となります。 ・機構案として示した図1の考え方は、立ち上げ時の1ヶ月を習熟期間（無償）と仮定して必要なスキルを習得して頂くことを想定しており、その後の2年間に於いて要員計画の変更がない場合は、ご認識のとおり、役務開始日の1ヶ月後を始点に23ヶ月が実支援期間となることを想定しています。
2	1	1. (1)	提案	習熟期間は、準備期間と工程管理業務が本格開始するタイミング（受託者参画）までの間に設定することが妥当だと考えます。当期間は工程管理業務が本格開始するタイミング（受託者参画）から参画する支援メンバーに対して、準備期間中に作成した全体計画やガイドライン等の習熟を図ることが目的と想定しています。（別紙参照）	本格開発工程の開始時まで、参画して頂く本役務の支援業者のスキル習熟ができており、機構職員と意識合わせをした上で、すぐに本格開発工程の開発受注者に対応ができることであれば、ご認識のとおり対応で問題ありません。それが分かるよう、「図1 年金業務システム（フェーズ2）作業スケジュールイメージ」を修正いたします。
3	1	1. (2)	提案	図1で開発マイルストーンを明確化した表記へ変更をご提案します。 必要なスキルと体制（人数）が精緻化でき、精度の高い御見積が可能となります。 弊社では開発受注者が決定後のタスクに以下が必要であると想定しております。 ・ガイドライン・標準類・運営ルールを開発受注者へ共有と徹底の依頼。 ・全体計画と全体実施計画書案を開発受注者へ共有。 その後、開発受注者は個別に実施計画書を作成し、全体実施計画書への反映を想定。これらの工程で約1ヶ月が必要だと想定しています。よって、開発受注者が決定して1ヶ月後から詳細設計が開始されると想定しております。	開発マイルストーンを明確化した本格開発工程のスケジュール案は、本公告にて提示いたします。
4	別紙1 支援調達役割分担表	項番46	質問	各種マルチベンダ会議の出席及び調整事項の説明資料の作成についてプロジェクト全体の工程管理支援「調達仕様書2-(1)-(ア)-c-(d)」を参照すると管理工程管理にも○が必要と思われるが不要でしょうか。	各種マルチベンダ会議は、各業務Gが主催する会議体ですが、工程管理が必要に応じて内容把握する必要があるため、ご指摘の通り、項番46の「各種マルチベンダ会議の出席及び調整事項の説明資料作成」を修正いたします。
5	別紙1 支援調達役割分担表	項番52	質問	品質評価会議の開催及び進行についてプロジェクト全体の工程管理支援調達仕様書2-(1)-(ア)-c-(c)-①を参照すると支援業者の作業内容に「品質評価会議開催に係る作業支援を行う」が必要と思われます。また、工程管理にも○が必要と思われますが不要でしょうか。	ご指摘のとおり、項番52の「品質評価会議の開催及び進行」は、工程管理が担うため、「別紙1 支援調達役割分担表」を修正いたします。

項番	仕様書の該当箇所		区分	意見等内容	回答
	頁	章番号等			
6	別紙1 支援 調達役割分 担表	項番112	質問	工程管理に○がついていますが、支援業者の作業内容欄に記載が無いため工程管理の○の削除が必要と思われます。	工程管理において全体スケジュールとの整合は確認しますが、ご指摘のとおり、工程管理に○となっていることは誤りのため、開発標準の記載を踏まえて基盤総合テストの役割を見直します。（項番108についても同様）
7	別紙1 支援 調達役割分 担表 1,2	項番 19,25,30,32, 34,36,38,40, 44,46,55	提案	左記資料の項番において、「・・・技術的知見に基づき、意見出し等をする。」「・・・開発受注者の説明内容に対する意見出しをする。」「・・・開発受注者へ意見出しをする。」との記載が複数箇所（主に各種会議）にございました。 現在の記載でございますと、支援業者と契約関係にない開発受注者への直接的なコミュニケーション及び作業依頼が発生する可能性があるように誤解を招く可能性があるため、修正いただくのが望ましいかと考えます。 具体的にどのように修正するかにつきましても一案をご提案させていただきます。 刷新プロジェクトを通じて発生する発注者様が主導的に行うべき課題の解決を支援業者の高度なITスキル、技能を駆使して解決に導くことが本来の支援業者に期待される役割と拝察いたします。 このため、役割分担表に各種会議で発生するさまざまな課題に対し、技術的知見に基づく解決策の提案を機構職員様へ行うといった内容に修正いただくことにより、支援業者に期待していることが伝わるものと考えております。 記載の見直しをご検討いただけると幸甚に存じます。	支援業者には、機構職員とともに会議に参加してもらい、各種会議で協議する課題内容や解決方針の妥当性について技術的な知見から問題ないか、適切な内容であるかという観点で、発注者側の立場で機構に代わって発言していただくことを想定しています。「・・・意見出し」という表現については、見直しさせていただきます。
8	別紙1 支援 調達役割分 担表 4	項番125	質問	現新一致テストの計画の作成が開発受注者になっておりますが、サブシステム横断的に現新一致テストを進めることを前提とした場合、発注者様主導で計画して進める工程であると考えております。 各サブシステム毎にそれぞれで独立して進めることが可能というご判断で各サブシステムの開発受注者がそれぞれで現新一致テストを実施するというお考えでよろしいか、ご見解の方ご教示願います。 （また、現新一致テストの環境構築に係る調整については現行システムとのデータの断面を合わせる必要があるため、発注者様が担わないと実現が困難に思います。）	現新一致テストについては、全3ステップに分割し実施することを想定しております。現新一致テストの進め方に関する全体方針として、「要件定義書」及び「現新比較検証実施方針書」に発注者としての方針を記載し本格開発工程の本公示にて提示予定です。 現新一致テストの全体方針は発注者で策定いたします。それを受けて各サブシステムの作業計画は個別に各サブシステムごとに作成していただく想定です。 なお、第1ステップは各サブシステムごとに独立して進めること想定していますが、第2、3ステップは各サブシステム毎に独立して進めることが出来ないため、発注者主導で各サブシステムの開発受注者のご協力のもと、実施する想定です。 また、現新一致テストの環境構築に係る調整の内、現行システムの調整は発注者が担う想定です。

項番	仕様書の該当箇所		区分	意見等内容	回答
	頁	章番号等			
9	6	2 (1) (イ) a. (b) ①テストWG	質問	(趣旨：工程管理支援の役割の確認) 大規模かつマルチベンダ体制での開発におけるテストおよび移行は、全体整合の確保が不可欠と認識しております。上記前提のもと、工程管理支援は、全体スケジュール、業務・システムの全体像等を把握した上で、以下に示す点に留意し、マルチベンダ体制で効率的に推進できるようリードしていくことが求められるものと認識していますが相違ないでしょうか。 －関係者間の役割分担 －サブシステム間の整合性の確保 －工程間の整合性の確保 各サブシステムで、上記の方針に基づいた個別のテスト計画や移行計画を策定することにより、テスト及び移行の品質担保や均質化、効率的な推進が実現できると考えております。	ご認識のとおりです。 調達仕様書の「2.(1)作業の内容」に示す通り、工程管理支援は、複数の開発受注者とコミュニケーションを取りながらプロジェクト全体を進行管理するための技術的支援を求めています。 テスト及び移行についても各種WGを通して、左記の観点を留意しながら、主体的に支援頂くことを想定しています。